

果樹産地の実態把握に 向けた調査結果

令和8年6月
前橋市 農政課

アンケート調査概要

【目的】

果樹産地における生産状況や収益増加に向けた産地の課題等を把握し、今後の果樹産地の振興強化を目指すこと及び前橋市果樹産地構造改革計画策定の基礎資料とするため。

【対象者】

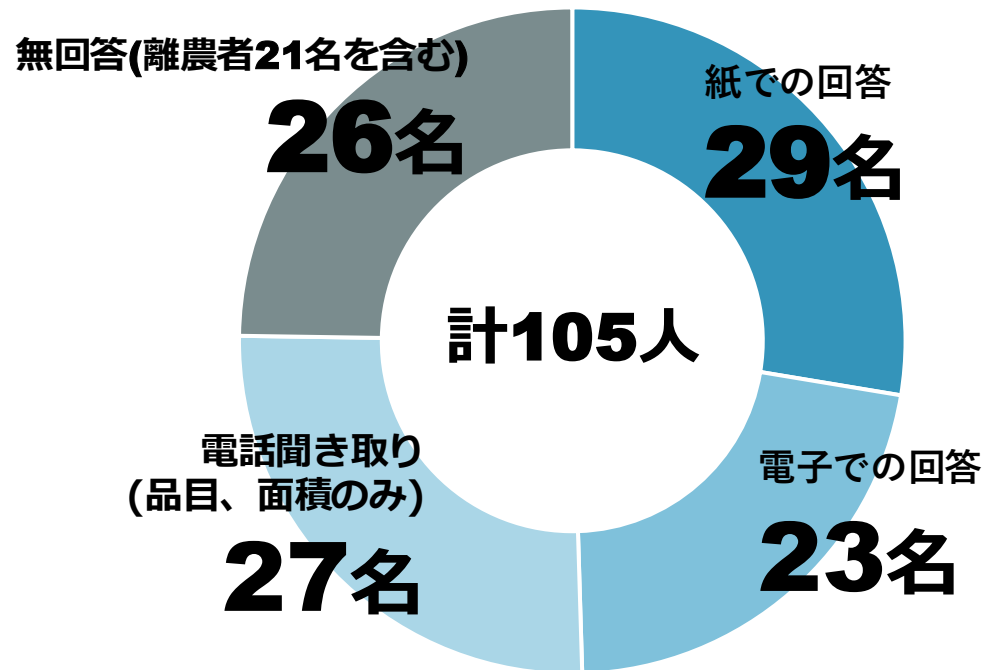
担い手リストに記載されている果樹農家及びJA前橋市果樹部会に加入している果樹農家(105名)

【実施方法】

アンケート用紙、二次元コードからlogoフォームにて回答

【実施期間】

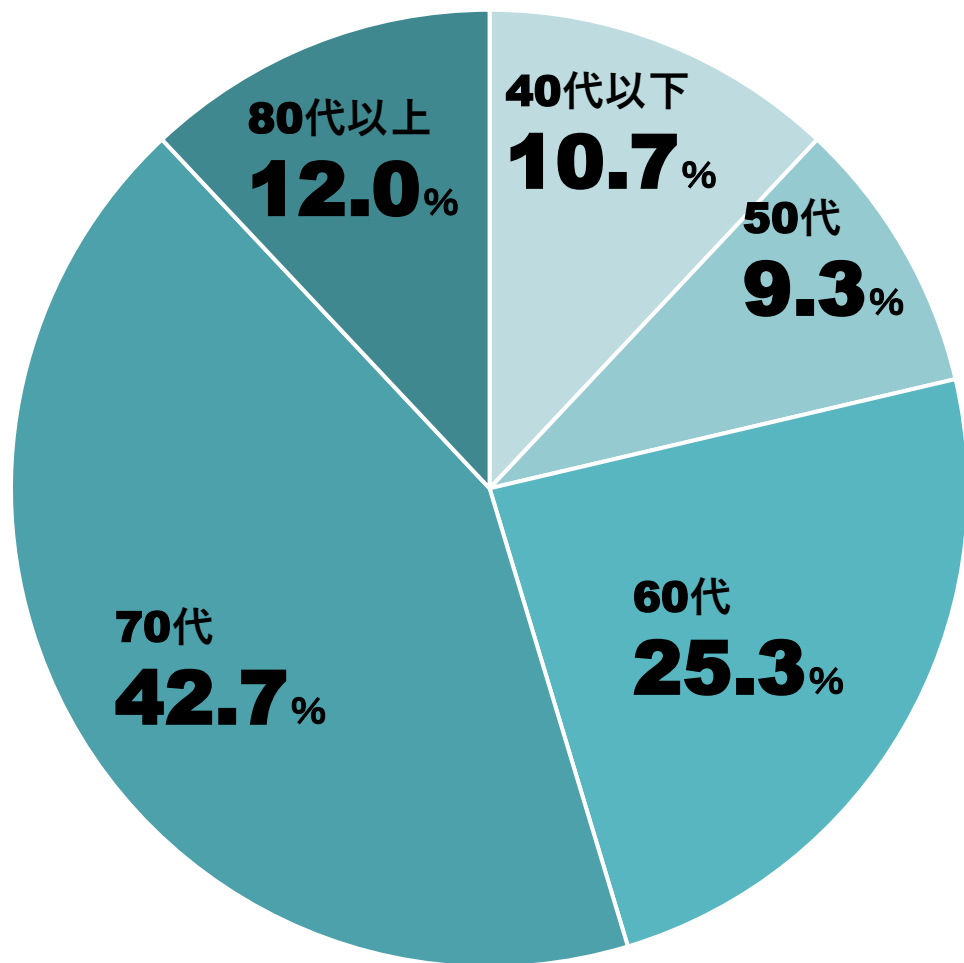
令和7年11月10日～令和7年11月28日



回答率：49.5%
(52名/105名)

※電話聞き取りは含まない

年代



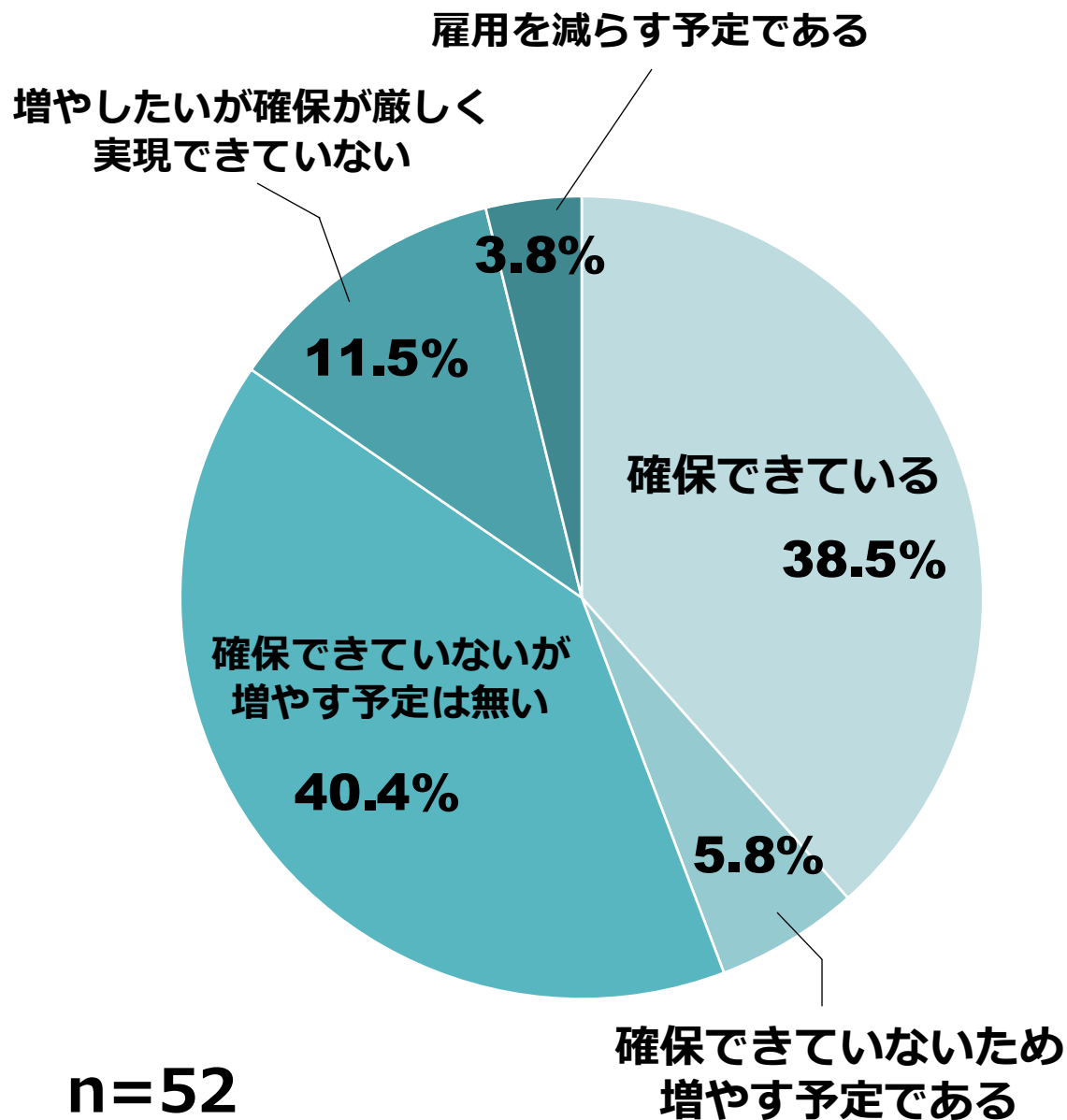
n=75

- ・ 60代以上で全体の**8割**
- ・ 50代以下の若手生産者が少ない

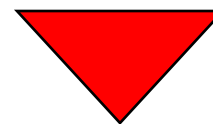
《若手の就農者がいない要因》

- ・ 果樹は収益ができるまでに3~4年かかるため新規で始めるハードルが高い。
- ・ 初期費用がかかる（果樹棚など）

労働力の確保状況

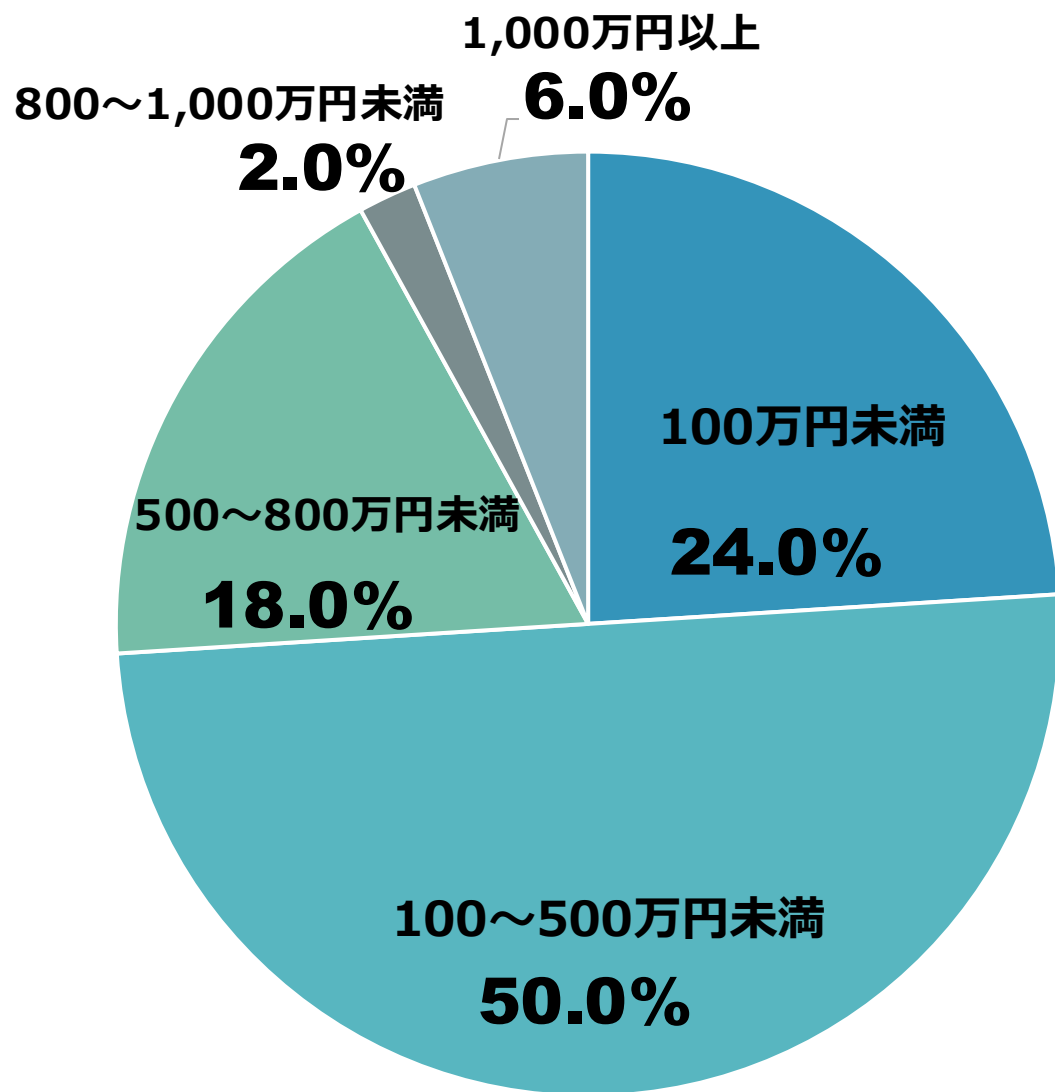


- ・ 十分な労働力を確保できていない生産者は**6割以上**。
- ・ 雇用を増やしたいが、確保が厳しく実現できていない生産者もいる。



**後継者、新規参入者などの
受け入れや育成ができる体制
の整備**

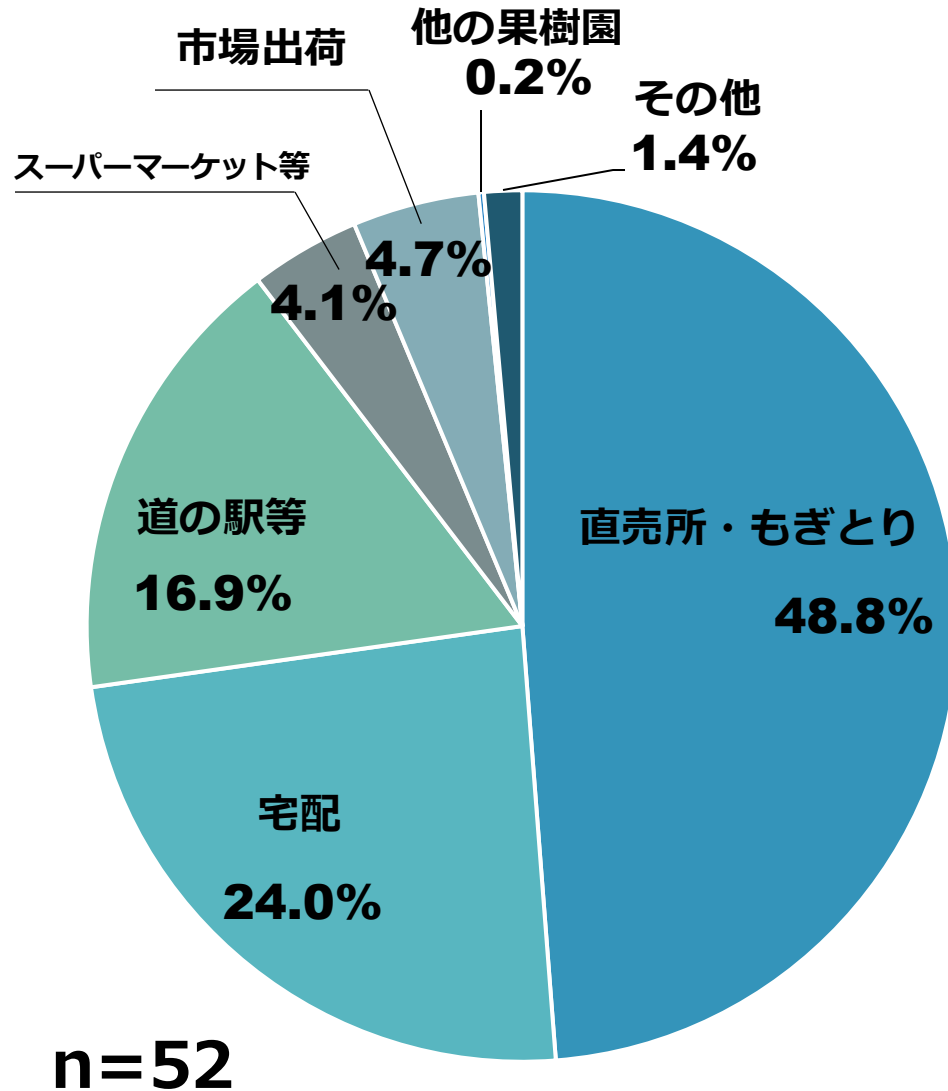
年間の農業収入



- 100～500万円未満が約半分
- およそ4分の1の生産者において、100万円未満と十分な収入を確保できていない一方で、1,000万円以上の収入がある人もいる。

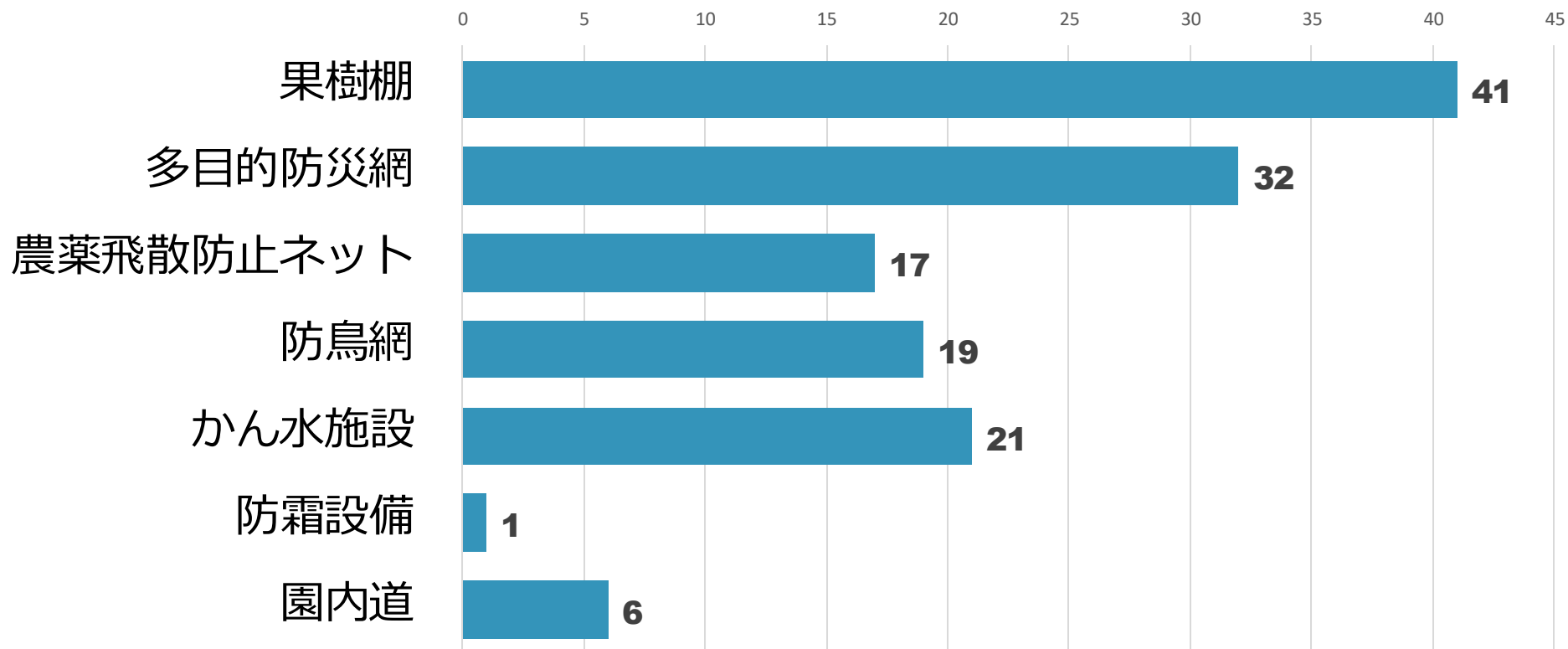
n=50

出荷先の割合



- ・ 7割以上が直売所・もぎとりと宅配
→直売を中心とした地域密着型の販売
- ・ 市場出荷はほとんど行っていない
→生産量の把握が難しい

所有している設備（複数回答）



n=49

※多目的防災網：防風網・防雹網・防虫網・防霜網

※園内道：園内に整備された道幅1.3m以上の道

- ・ 8割以上の生産者において果樹棚を所有している。
- ・ 多目的防災網の設置も多い

後継者の有無

後継者がいる果樹農家

10名

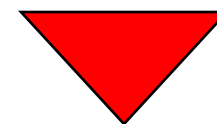
19.2
%

後継者がいない
果樹農家

42名

80.8
%

**8割以上の生産者で
後継者がいない！**



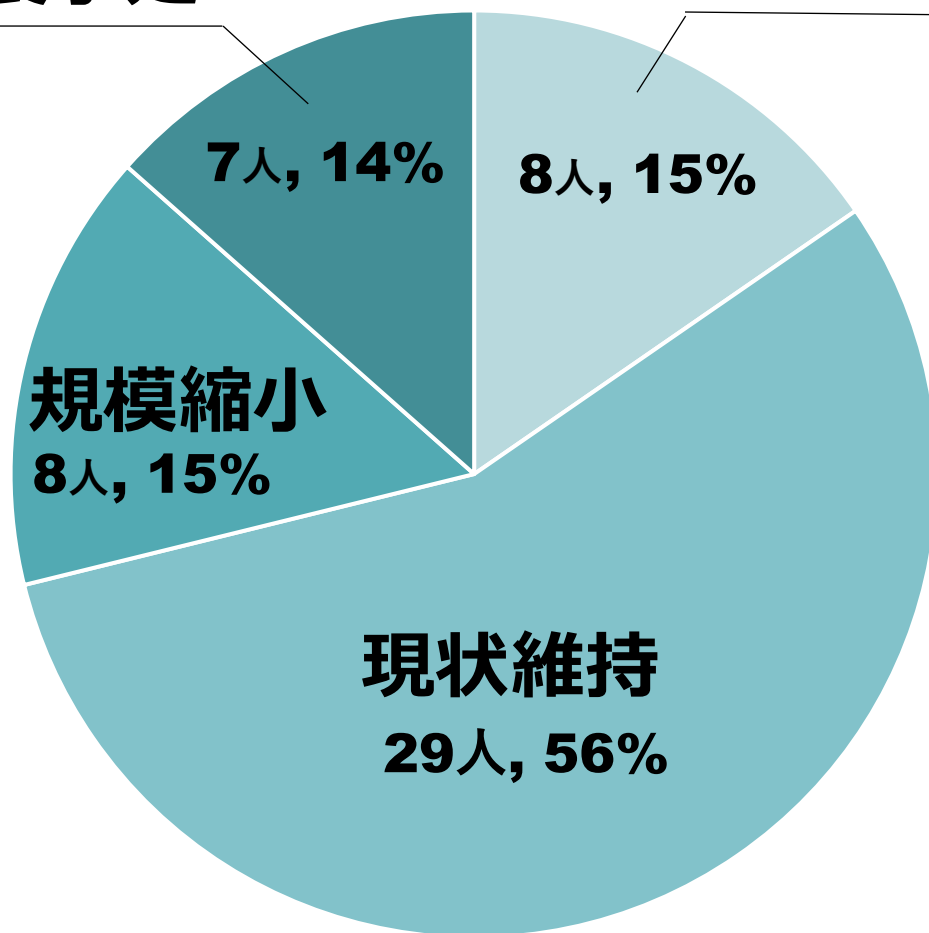
**10年後、20年後に果樹
農家が急激に減少する懸念**

n=52

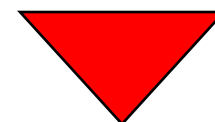
今後5年間の農業経営について

離農予定

規模拡大予定



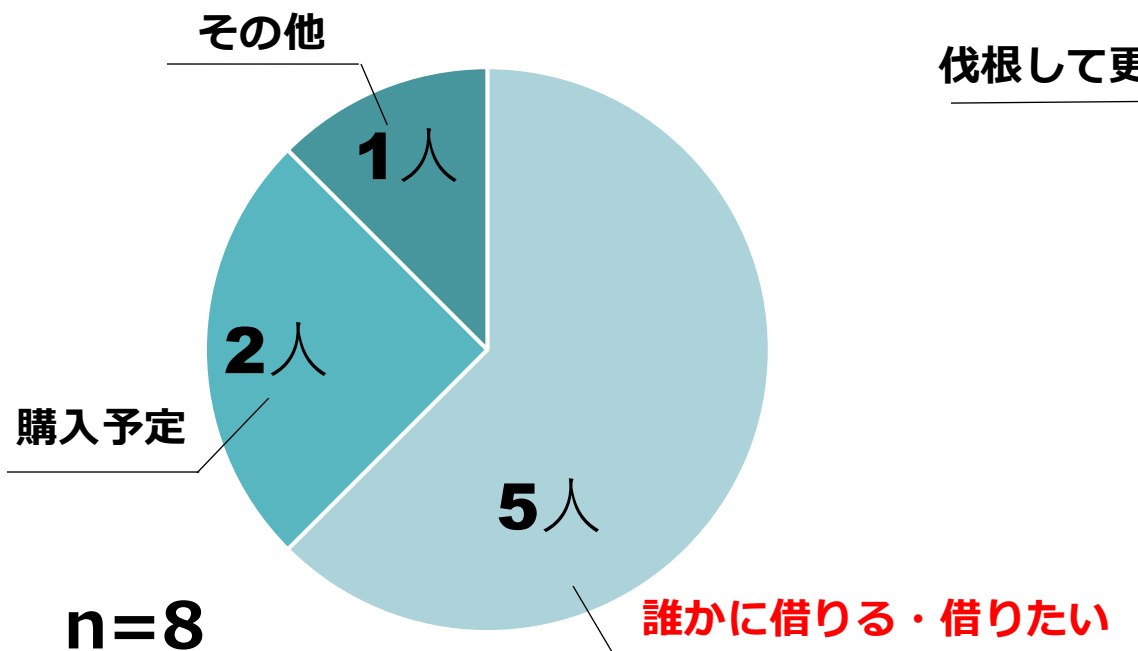
- ・ 現状維持が半分以上を占める。
- ・ 規模縮小、離農予定が約3割。



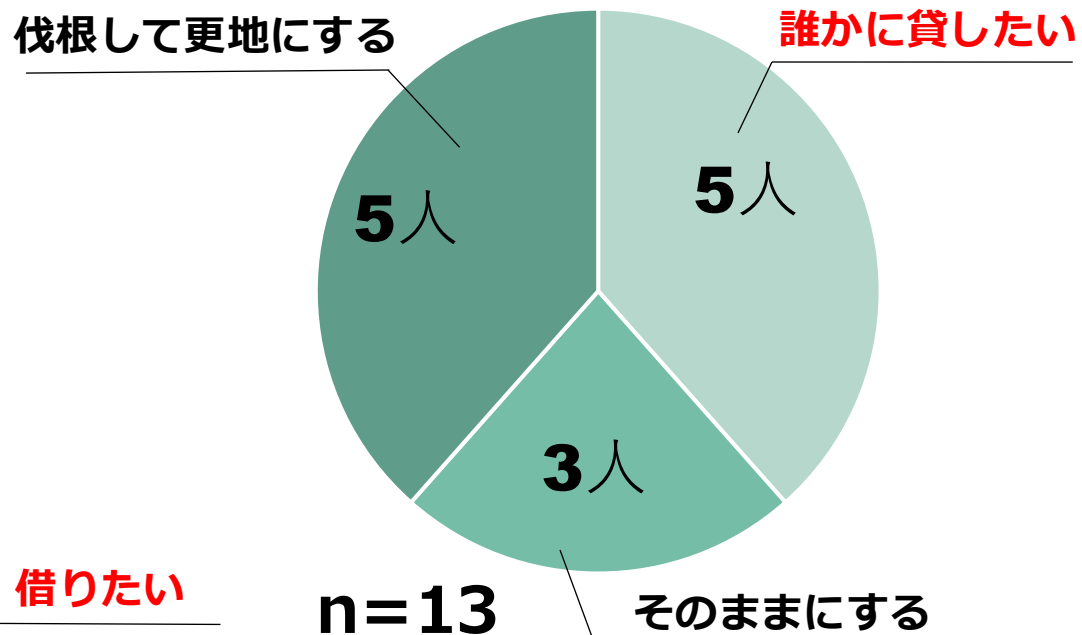
将来的な担い手不足
栽培面積の減少

今後5年間の農業経営について

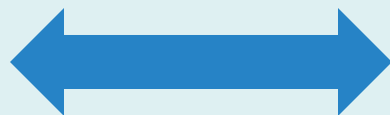
圃場の入手方法



廃園後の圃場の予定



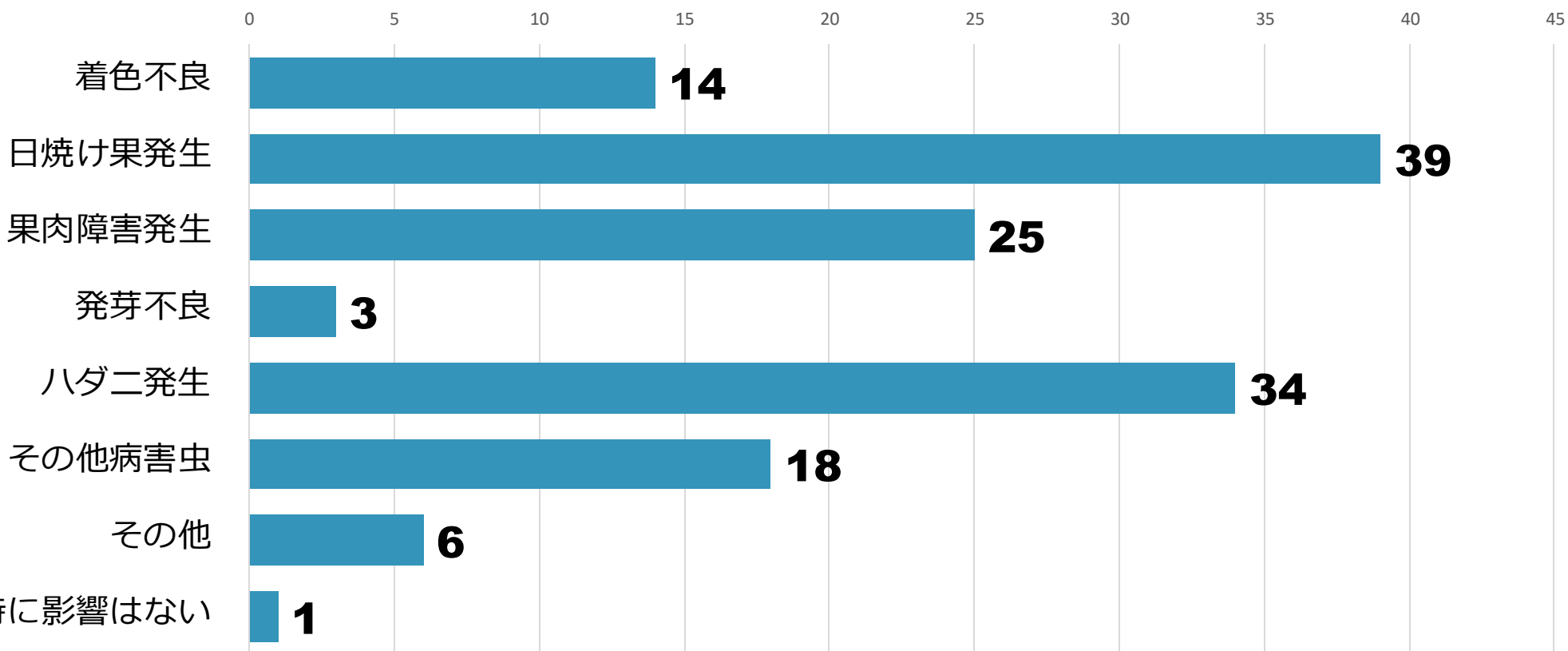
借りたい人



貸したい人

果樹園地のマッチング

温暖化による影響（複数回答）

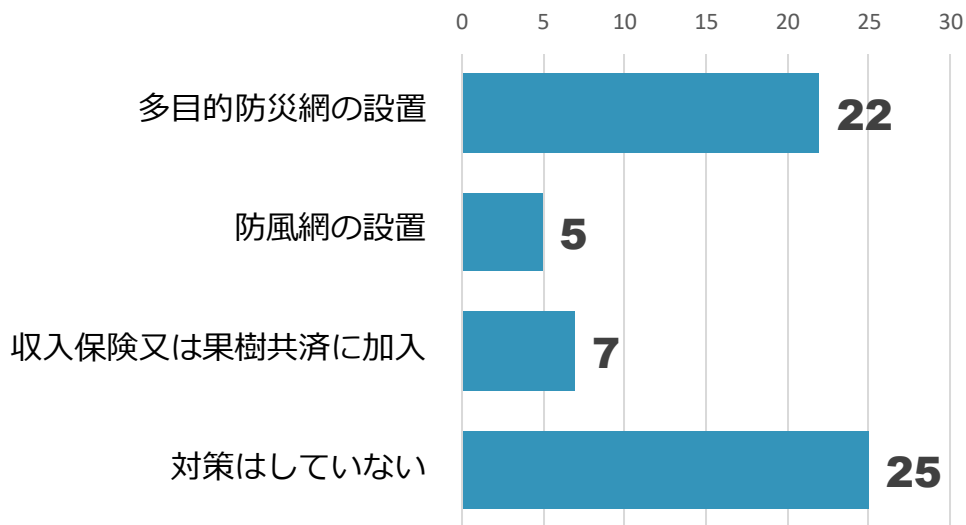


n=50

- ・ほとんどの生産者で温暖化による影響を感じている
- ・日焼け果、ハダニ、果肉障害の発生が多い

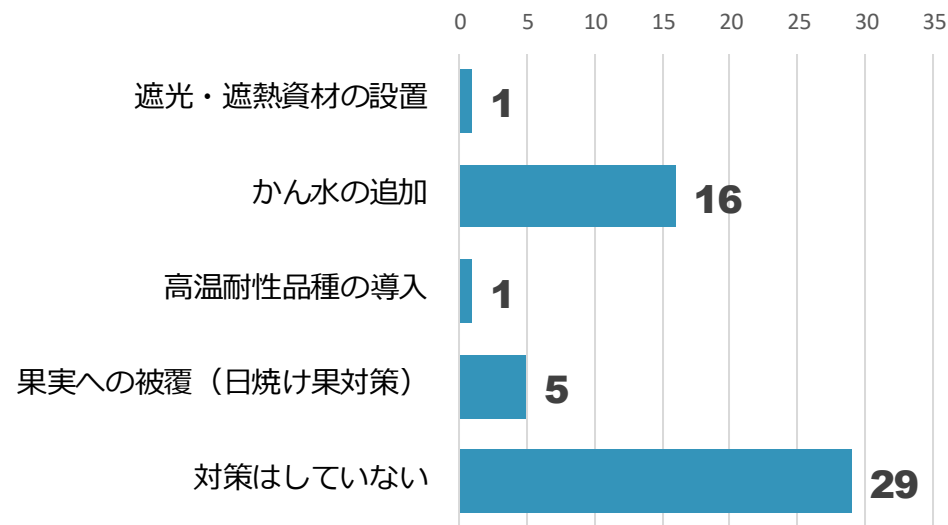
気象災害、高温への対策（複数回答可）

気象災害への対策



n=51

高温への対策

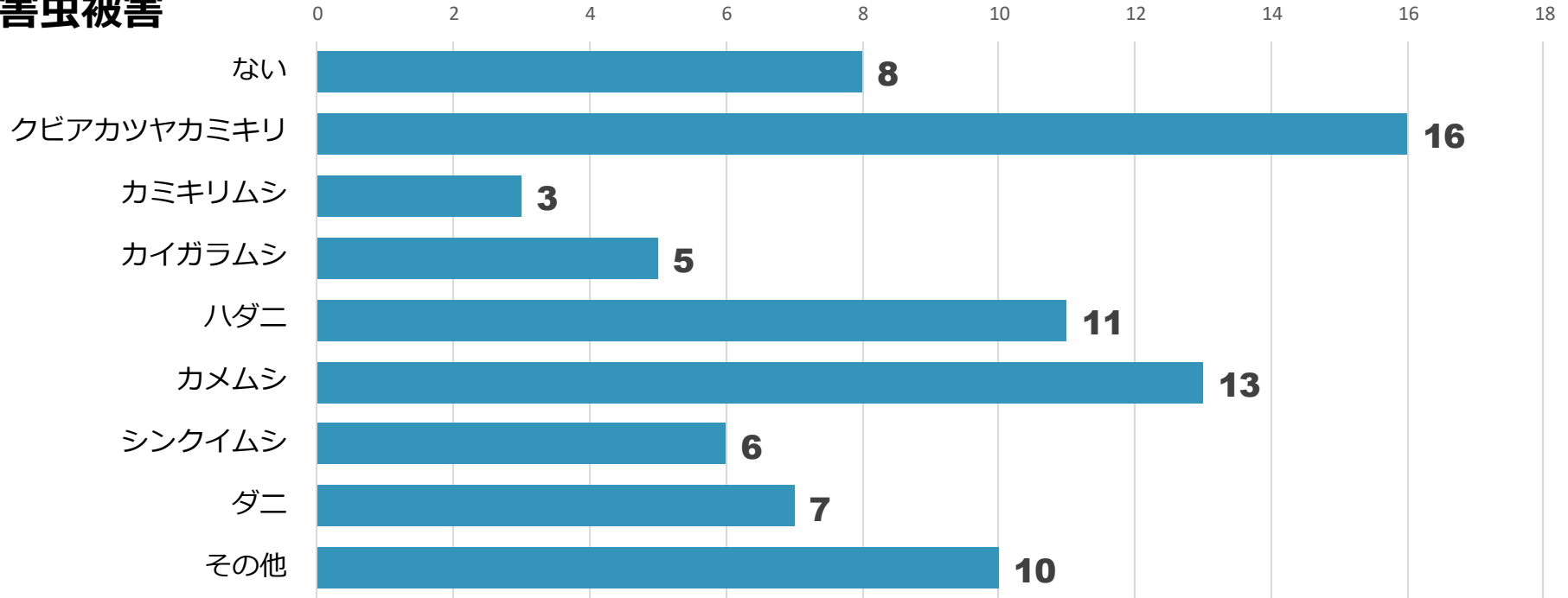


n=49

- ・ 半分以上の生産者が対策を実施していない
- ・ 市で補助を行っている多目的防災網の導入は多い

病虫害（複数回答可）

病虫害被害

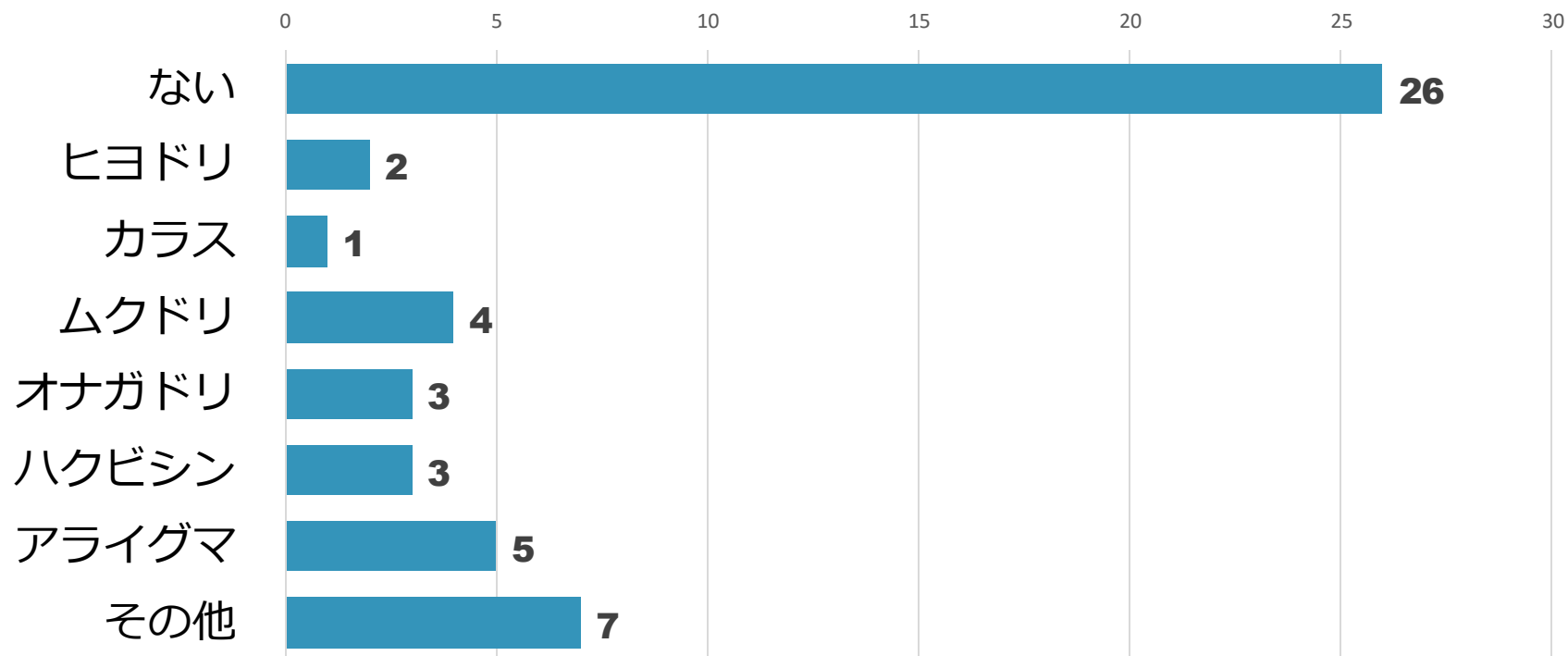


その他：ヘタムシ、リンゴ炭疽病、輪紋病、アザミウマ、カブトムシ、クワガタ、コガネムシ、アブラムシ等

n=49

- ・ 8割以上の生産者で病虫害被害が発生している
- ・ 特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの被害が多い(モモ)

鳥獣被害（複数回答可）



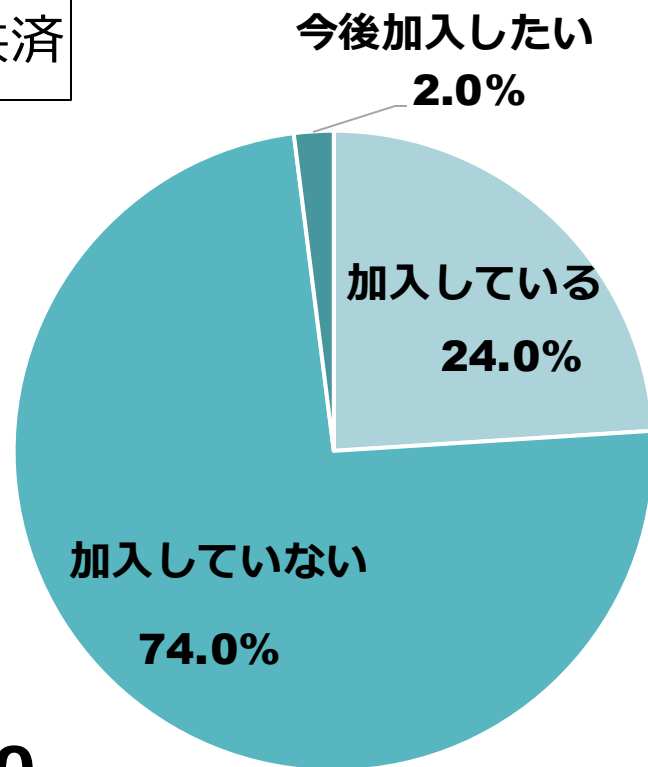
n=49

その他：キツネ、イノシシ、スズメ

- 鳥獣害はおよそ半分の生産者において被害が生じている
- 被害鳥獣種は様々

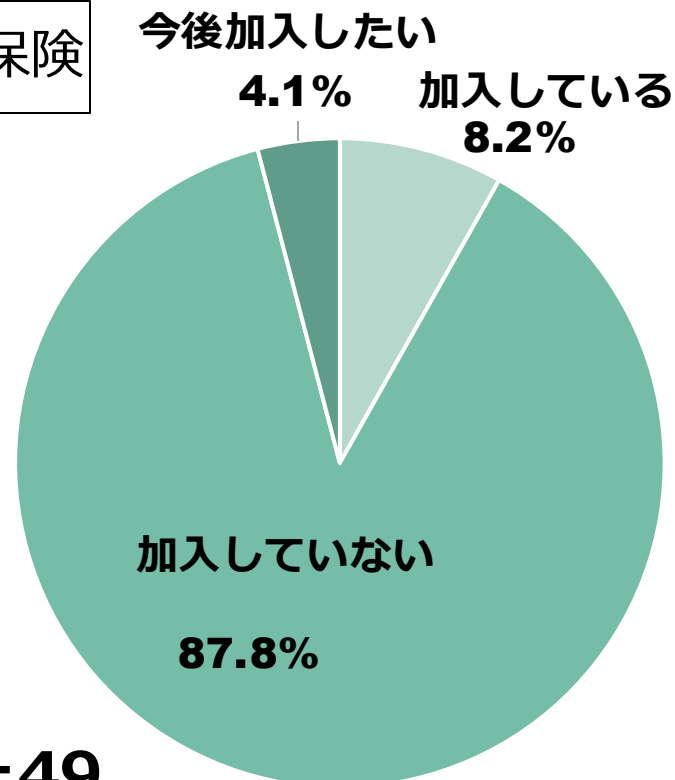
農業共済、収入保険への加入状況

農業共済



n=50

収入保険



n=49

- ・ 農業共済は76%、収入保険は約92%が**加入していない**。
- ・ 突発的な気象災害や盗難等に備え、加入を促進していく。

経営上の課題・要望

〈課題・困っていること〉

- ・ 夏季の高温により収穫量の減少や雑草繁茂等への労力増加や除草剤費用の増加。
- ・ 高齢化、後継者の不在などによる人手不足、将来の担い手不足。
- ・ 老木化による収量減。
- ・ 資材高騰による経費増大。
- ・ クビアカツヤカミキリ等の害虫被害。
- ・ 果実や機械の盗難。

〈要望〉

- ・ 栽培技術向上のため、剪定、土地改良技術等の講習会の実施。
- ・ 雇用支援体制の充実。
- ・ 廃業農家から継承に伴う支援制度の充実。
- ・ 販売者同士の交流機会の創出。

まとめ

- ・ **担い手確保に向けた取組を実施**

→果樹園地のマッチングを推進する事により、新規就農者や規模拡大希望者がスムーズに営農（規模拡大）できるような体制を作る。

- ・ **高温等の気象災害への対応の強化**

→市の園芸高温対策事業の周知、高温対策講習会。

- ・ **技術支援の拡充**

→技術レベルに応じた栽培技術講習会や研修会の充実化。